



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587032101	科目番号	05870321
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(社会・メディア・政治)		
編集担当教員	深尾 典男		
授業担当教員名(科目責任者)	深尾 典男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深尾 典男		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	fukao@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	広報戦略本部（事務局棟2F）		
担当教員TEL	819-2008		
担当教員オフィスアワー	平日 9：30～17：30		
授業の概要及び位置づけ	社会人に求められる素養の一つに、情報を収集し、分析する力があります。わたしたちは日常生活のなかで、新聞やテレビ、雑誌、インターネットなどのメディアを通じてさまざまな情報に接しますが、このなかから、自分にとって必要な情報を収集し分析することは、社会参画への重要な第一歩となります。また、日々接する情報のなかには、気づかないうちに大きな意識の変容をもたらしているものもあります。そこで本科目では、注目されるテーマを題材に、各メディアがどのような特性を持つかを分析し、メディアの具体的な活用方法について、議論し、検討します。また、メディアの表現手法を学ぶことで、自身の表現能力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。		
授業到達目標	（カッコ内は対応する全学モジュール目標の番号） 社会の動きに関心を持ち、自ら情報を獲得する生活態度を身につける（①、②、④、⑦、⑧、⑨） 報道される情報を的確に理解し、バランスよく判断できる（①、②、⑦、⑩） 自ら集めた情報をもとに考えをまとめ、他者と議論することができる（①、②、③、⑤、⑩、⑪、⑫、⑬） メディアの表現方法を学び、自らの表現に生かすことができる（①、③、⑤、⑫、⑬）		
授業方法（学習指導法）	社会的に注目されるテーマを題材に、グループワークやグループプレゼンテーションを実施します。学習者同士での討議や自ら集めた情報の編集・加工を通じてメディアの手法を学ぶと同時に、プレゼンテーション能力も高めていきます。一方、メディアの持つ特性を教授することにより、メディアの特性を理解し、多様なメディアを有効に活用するための素養を高めます。授業時のワークや受講後のレポート提出、プレゼンテーションの実施により評価します。期末試験は実施しません。		
	回	内容	
	1	導入	
	2	メディアの歴史と現状	

授業内容	3	メディアを取り巻く環境
	4	変質するメディア
	5	メディアの手法を学ぶ
	6	メディアを深く知る（新聞）
	7	グループワーク／新聞報道について
	8	メディアを深く知る（放送）
	9	グループワーク／テレビ報道について
	10	グループワーク／発信する情報をまとめる
	11	プレゼンテーション
	12	メディアの果たした役割
	13	メディアとの接し方①
	14	メディアとの接し方②
	15	まとめと振り返り
	16	
キーワード	表現手法、権力、ジャーナリズム、ネット活用、メディアリテラシー	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	出席状況と授業態度、授業外課題、授業内のプレゼンテーション、レポート提出等を総合的に判断します。	
受講要件（履修条件）	全回出席できること。与えられた課題に対して、事前事後の学習時間を確保できること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587032501	科目番号	05870325
授業科目名	●コミュニケーション実践学II (対人世界の心理学)		
編集担当教員	川越 明日香		
授業担当教員名(科目責任者)	川越 明日香		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川越 明日香		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	kawagoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新館2階（254-2）		
担当教員TEL	095-819-2773		
担当教員オフィスアワー	メールで相談のこと		
授業の概要及び位置づけ	自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索することをねらいとしています。 また、将来、国際社会のリーダーとなるために、自らの成長につながる「気づき」を得ると共に、リーダーシップに必須のコミュニケーションの基礎を学びます。		
授業到達目標	（カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号） ・自分の対人関係スタイルを分析することができる（①、⑫、⑬） ・関心をもった内容について、グループプレゼンテーションを適切に行うことができる。（③、⑤、⑫、⑬） ・リーダーシップ理論の変遷を記述することができる。（①、⑦） ・コミュニケーションのもつ機能について説明することができる（⑦、⑨） ・ディベートを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。（②、③、⑤、⑬） ・対人世界における自分の行動課題を適切にまとめることができる。（④、⑤、⑩）		
授業方法（学習指導法）	様々な対人関係のあり方を学びながら、リーダーシップやコミュニケーションについて学習します。講義と演習（グループ活動、プレゼンテーション、ディベート等）を随時取り入れていきます。そのため、それぞれの作業に必要な内容を事前に準備することを必須とし、授業外課題として成績評価の対象にします。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション、セルフコーチング	
	2	自己紹介（プレゼンテーション）	
	3	まとめと振り返り	
	4	様々な対人関係	
	5	グループ活動	

授業内容	6	集団の中のわたし（プレゼンテーション）
	7	まとめと振り返り
	8	リーダーシップ理論の変遷
	9	グループ活動
	10	良いリーダーシップ（プレゼンテーション）
	11	まとめと振り返り
	12	リーダーシップとコミュニケーション
	13	グループ活動
	14	リーダーに必要とされるコミュニケーション（ディベート）
	15	まとめと振り返り
	16	試験
キーワード	セルフコーチング、対人関係、リーダーシップ、コミュニケーション	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。使用する教材は、その都度お知らせします。 参考資料： 人間関係の心理学 高橋恵子 東京大学出版会 2010年 コミュニケーションと対人関係 相川充・高井次郎編著 誠信書房 2010年 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら 岩崎夏海 ダイ ヤモンド社 2009年	
成績評価の方法・基準等	授業外課題（2点×15回）＋出席（1点×15回）＋授業内活動（15点）＋試験またはレポート（40点）＝100点のうち、60点以上を合格とします。	
受講要件（履修条件）	授業外学習に週平均2時間程度を充てること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587032901	科目番号	05870329
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(身体・かかわり・言葉)		
編集担当教員	山地 弘起		
授業担当教員名(科目責任者)	山地 弘起		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山地 弘起		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[学生ﾌﾞﾗｻﾞｰ 2F]		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新棟4階		
担当教員TEL	内線2087		
担当教員オフィスアワー	メールで相談のこと		
授業の概要及び位置づけ	普段のコミュニケーションでは、言葉の内容に注意が向きがちです。しかし実際には、顔の表情や声、ジェスチャーや姿勢などで伝わっているものが多く、しかも身体はその高度な調整機能によって「空気」を読み、状況に対応して、意図的・非意図的なさまざまな動きを同時展開しています。 ところが、一定の発達過程を経て固定化した行動パターンでは、こうした身体の知恵や潜在力を必ずしも十分に発揮できません。本来の自然体の動きを、ルーチン化した習慣によって枠付けし阻害していることがむしろ一般的なのです。今後、「想定外」の状況やますます複雑化する人間関係を生き抜いていくためには、なじんだ心身習慣を越えて、個々の状況でより柔軟かつ現実的に対応できる力が求められます。 そこで本科目では、生き物としての自分のあり方を振り返り、身体との関わり方・世界との関わり方を再学習（脱学習）して感受性や表現力を高め、より自由で手応えの感じられるコミュニケーションが可能になることをめざします。		
授業到達目標	（カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号） ・身体にいていねいに意識を向けることで、さまざまな感覚や感情の推移を体験する。（①、⑨） ・自分との関わり方が変わることで、体験や行動も変わること気づく。（①、②、⑬） ・身体次元の体験が言葉となってくるプロセスを体験する。（③） ・他者との関わりでより機能的な自己表現ができる。（③、⑫、⑬） ・身体心理学の基礎的な考え方を説明することができる。（⑦） ・自分の体験傾向と成長課題を適切にまとめることができる。（②、⑤、⑫）		
授業方法（学習指導法）	身体心理学の基礎的な考え方を紹介しながら、授業は体験学習を中心に進めます。十分な実習時間を確保するため、2コマ連続（木3・4限）の授業とし、8週間で終了します。30人程度のクラスで行いますので、受講希望者が多い場合には、前半の8週間と後半の8週間の2クラスに分けて実施します。 授業外課題（毎日20分程度）があり、これを継続することが本科目の最も効果的な学習となります。最後に総括のための確認テストとレポート課題があります。期末試験は実施しません。		

授業内容	第1回において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、受講者との間で必要な調整を行う予定です。その後、身体心理学の基礎的な解説を含めながら 徐々に体験学習を深めていきます。まず、第2回～第5回では身体体験にいていねいに焦点を当てます。続いて、第6回～第9回ではフォーカシングとよばれる自己 内対話の技法を中心に学習を進め、その後第10回～第13回で他者との関わりをテーマにした体験学習を行います。最後に、第14回～第16回で全体の復習 と総括を行います。	
	回	内容
	1	I 導入：身体に焦点を当てる意義
	2	II 身体とのかかわり：①私のからだ
	3	II 身体とのかかわり：②重さと動き
	4	II 身体とのかかわり：③呼吸と動き
	5	振り返りと討論
	6	III 自分とのかかわり：①感覚と感情
	7	III 自分とのかかわり：②身体に尋ねる
	8	III 自分とのかかわり：③フォーカシング
	9	振り返りと討論
	10	IV 他者とのかかわり：①関わるとは
	11	IV 他者とのかかわり：②声と言葉
	12	IV 他者とのかかわり：③動きと表現
	13	振り返りと討論
	14	V まとめ：①確認テストとフィードバック
	15	V まとめ：②レポート準備
	16	V まとめ：③フォローアップ
キーワード	身体心理学、非言語行動、アウェアネス、フォーカシング、脱学習	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。参考書は以下の通り： ・竹内敏晴 「『出会う』ということ」 藤原書店 2009年 ・池見陽 「心のメッセージを聴く：実感が語る心理学」 講談社現代新書 1995年 ・平木典子 「アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法」 講談社現代新書 2012年	
成績評価の方法・基準等	全回出席を前提にします。（授業ワークシート6点＋授業外課題4点）×7回＋確認テスト10点＋レポート20点＝100点のうち、60点以上を合格とします。	
受講要件（履修条件）	全回出席が可能なこと、授業外学習に週平均3時間程度を充てること、授業では集中して参加することを受講要件とします。 体験学習では、集中の深い受講者が集中の浅い受講者に傷つけられることも起こり得ますので、最後の点は特に留意して下さい。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	いろいろな姿勢や動きをしても気にならない服装で参加して下さい（身体を締め付ける服装や、スカートやサンダル等は避けて下さい）。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587032902	科目番号	05870329
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(身体・かかわり・言葉)		
編集担当教員	山地 弘起		
授業担当教員名(科目責任者)	山地 弘起		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山地 弘起		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[学生ﾌﾟﾗｻﾞ 2F]		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hyamaji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新棟4階		
担当教員TEL	内線2087		
担当教員オフィスアワー	メールで相談のこと		
授業の概要及び位置づけ	普段のコミュニケーションでは、言葉の内容に注意が向きがちです。しかし実際には、顔の表情や声、ジェスチャーや姿勢などで伝わっているものが多く、しかも身体はその高度な調整機能によって「空気」を読み、状況に対応して、意図的・非意図的なさまざまな動きを同時展開しています。 ところが、一定の発達過程を経て固定化した行動パターンでは、こうした身体の知恵や潜在力を必ずしも十分に発揮できません。本来の自然体の動きを、ルーチン化した習慣によって枠付けし阻害していることがむしろ一般的なのです。今後、「想定外」の状況やますます複雑化する人間関係を生き抜いていくためには、なじんだ心身習慣を越えて、個々の状況でより柔軟かつ現実的に対応できる力が求められます。 そこで本科目では、生き物としての自分のあり方を振り返り、身体との関わり方・世界との関わり方を再学習（脱学習）して感受性や表現力を高め、より自由で手応えの感じられるコミュニケーションが可能になることをめざします。		
授業到達目標	（カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号） ・身体にいていねいに意識を向けることで、さまざまな感覚や感情の推移を体験する。（①、⑨） ・自分との関わり方が変わることで、体験や行動も変わることに気づく。（①、②、⑬） ・身体次元の体験が言葉となってくるプロセスを体験する。（③） ・他者との関わりでより機能的な自己表現ができる。（③、⑫、⑬） ・身体心理学の基礎的な考え方を説明することができる。（⑦） ・自分の体験傾向と成長課題を適切にまとめることができる。（②、⑤、⑫）		
授業方法（学習指導法）	身体心理学の基礎的な考え方を紹介しながら、授業は体験学習を中心に進めます。十分な実習時間を確保するため、2コマ連続（木3・4限）の授業とし、8週間で終了します。30人程度のクラスで行いますので、受講希望者が多い場合には、前半の8週間と後半の8週間の2クラスに分けて実施します。 授業外課題（毎日20分程度）があり、これを継続することが本科目の最も効果的な学習となります。最後に総括のための確認テストとレポート課題があります。期末試験は実施しません。		

授業内容	第1回において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、受講者との間で必要な調整を行う予定です。その後、身体心理学の基礎的な解説を含めながら 徐々に体験学習を深めていきます。まず、第2回～第5回では身体体験にいていねいに焦点を当てます。続いて、第6回～第9回ではフォーカシングとよばれる自己 内対話の技法を中心に学習を進め、その後第10回～第13回で他者との関わりをテーマにした体験学習を行います。最後に、第14回～第16回で全体の復習 と総括を行います。	
	回	内容
	1	I 導入：身体に焦点を当てる意義
	2	II 身体とのかかわり：①私のからだ
	3	II 身体とのかかわり：②重さと動き
	4	II 身体とのかかわり：③呼吸と動き
	5	振り返りと討論
	6	III 自分とのかかわり：①感覚と感情
	7	III 自分とのかかわり：②身体に尋ねる
	8	III 自分とのかかわり：③フォーカシング
	9	振り返りと討論
	10	IV 他者とのかかわり：①関わるとは
	11	IV 他者とのかかわり：②声と言葉
	12	IV 他者とのかかわり：③動きと表現
	13	振り返りと討論
	14	V まとめ：①確認テストとフィードバック
	15	V まとめ：②レポート準備
	16	V まとめ：③フォローアップ
キーワード	身体心理学、非言語行動、アウェアネス、フォーカシング、脱学習	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。参考書は以下の通り： ・竹内敏晴 「『出会う』ということ」 藤原書店 2009年 ・池見陽 「心のメッセージを聴く：実感が語る心理学」 講談社現代新書 1995年 ・平木典子 「アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法」 講談社現代新書 2012年	
成績評価の方法・基準等	全回出席を前提にします。（授業ワークシート6点＋授業外課題4点）×7回＋確認テスト10点＋レポート20点＝100点のうち、60点以上を合格とします。	
受講要件（履修条件）	全回出席が可能なこと、授業外学習に週平均3時間程度を充てること、授業では集中して参加することを受講要件とします。 体験学習では、集中の深い受講者が集中の浅い受講者に傷つけられることも起こり得ますので、最後の点は特に留意して下さい。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	いろいろな姿勢や動きをしても気にならない服装で参加して下さい（身体を締め付ける服装や、スカートやサンダル等は避けて下さい）。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587033301	科目番号	05870333
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(芸術・スポーツとコミュニケーション)		
編集担当教員	西田 治		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 治,小原 達朗		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[学生ﾌﾞﾗｻﾞｰ 1F]多目的室1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館 5 1 6		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	昼休み（事前にメールにてアポイントを取ることを）		
授業の概要及び位置づけ	芸術やスポーツ（身体活動）は、そのパフォーマンスをパフォーマー自身が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。 本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現や実践を通して体験し、実生活の中で活用できるようになることをねらいとしている。		
授業到達目標	・ 自己の精神性及び身体性の特性を理解し、自己を表現する際にに生かすことができる（①③④⑨）。 ・ 言語的表現を非言語的な表現にイメージし、具体的に行動化できる（⑤）。 ・ 芸術やスポーツに内在するコミュニケーションの多様な形について理解し、説明できる（⑦）。 ・ 音や身体を使って思いや意志を相手に伝えることができ、生活場面へ汎化させることができる（⑩⑫⑬）。		
授業方法（学習指導法）	本授業は、芸術とコミュニケーション（前半）とスポーツとコミュニケーション（後半）に分けて実施する。 芸術とコミュニケーションにおいては、音によるコミュニケーションの可能性について理解し、その一端を経験することを目的とする。音楽療法の講義では、言語でのやり取りではなく、音あるいは音楽でコミュニケーションすることについて知的な理解を得ることを目的とし、ジャンベなどのハンドドラムと小物打楽器による即興演奏であるドラムサークルの講義では、実際に音でコミュニケーションをとる体験をし、それをディスカッションによって深めていく活動を行う。 スポーツとコミュニケーションにおいては、人のからだの持つ表現性、しぐさの持つメッセージ、意図的なサインによる会話、スポーツ場面での様々な情報伝達などについて実践しながら		

	コミュニケーション能力を身につける。
授業内容	1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性 2 真似る細胞（ミラーニューロン）...ひとの脳の表現性 3 しぐさに込められた謎 4 サインに込められた意図 5 スポーツの中のコミュニケーション（その1） 6 スポーツの中のコミュニケーション（その2） 7 サインプレーの実践 8 授業の意図と概要 9 ドラムサークル1 音あそび（アイスブレイク） 10 ドラムサークル2 11 ドラムサークル3 12 ドラムサークル4 13 グループ音楽活動の意義 14 ドラムサークル5 15 ドラムサークル6 16 総括
キーワード	コミュニケーション 音楽 身体 スポーツ
教科書・教材・参考書	参考文献 『音楽療法士のしごと』 生野 里花 (著) 単行本: 255ページ 出版社: 春秋社 (1998/01) 『ファシリテーターの「在り方」 エンパワメントドラムサークル』 佐々木 薫 (著) 大型本: 68ページ 出版社: エー・ティ・エヌ; 菊倍版 (2008/11/11) 『音楽文化のすすめ—いま、ここにある音楽を理解するために』 小西 潤子 (編集), 志村 哲 (編集), 仲 万美子 (編集) 単行本: 264ページ 出版社: ナカニシヤ出版 (2007/03) 『スポーツコミュニケーション』 東海林祐子 (著) 単行本: 187ページ 出版社: ブックハウス・エイチディ (2011/06) 『身ぶりとしぐさの人類学』（中公新書） 野村雅一 (著) 単行本: 225ページ 中央公論社 (2002/05)
成績評価の方法・基準等	レポートなどの提出物 70パーセント 講義時のワークシート 30パーセント
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587033302	科目番号	05870333
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(芸術・スポーツとコミュニケーション)		
編集担当教員	西田 治		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 治,小原 達朗		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[学生ﾌﾟﾗｻﾞ 1F]多目的室1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館 5 1 6		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	昼休み（事前にメールにてアポイントを取ることを）		
授業の概要及び位置づけ	芸術やスポーツ（身体活動）は、そのパフォーマンスをパフォーマー自身が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。 本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現や実践を通して体験し、実生活の中で活用できるようになることをねらいとしている。		
授業到達目標	・ 自己の精神性及び身体性の特性を理解し、自己を表現する際にに生かすことができる（①③④⑨）。 ・ 言語的表現を非言語的な表現にイメージし、具体的に行動化できる（⑤）。 ・ 芸術やスポーツに内在するコミュニケーションの多様な形について理解し、説明できる（⑦）。 ・ 音や身体を使って思いや意志を相手に伝えることができ、生活場面へ汎化させることができる（⑩⑫⑬）。		
授業方法（学習指導法）	本授業は、芸術とコミュニケーション（前半）とスポーツとコミュニケーション（後半）に分けて実施する。 芸術とコミュニケーションにおいては、音によるコミュニケーションの可能性について理解し、その一端を経験することを目的とする。音楽療法の講義では、言語でのやり取りではなく、音あるいは音楽でコミュニケーションすることについて知的な理解を得ることを目的とし、ジャンベなどのハンドドラムと小物打楽器による即興演奏であるドラムサークルの講義では、実際に音でコミュニケーションをとる体験をし、それをディスカッションによって深めていく活動を行う。 スポーツとコミュニケーションにおいては、人のからだの持つ表現性、しぐさの持つメッセージ、意図的なサインによる会話、スポーツ場面での様々な情報伝達などについて実践しながら		

	コミュニケーション能力を身につける。
授業内容	1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性 2 真似る細胞（ミラーニューロン）...ひとの脳の表現性 3 しぐさに込められた謎 4 サインに込められた意図 5 スポーツの中のコミュニケーション（その1） 6 スポーツの中のコミュニケーション（その2） 7 サインプレーの実践 8 授業の意図と概要 9 ドラムサークル1 音あそび（アイスブレイク） 10 ドラムサークル2 11 ドラムサークル3 12 ドラムサークル4 13 グループ音楽活動の意義 14 ドラムサークル5 15 ドラムサークル6 16 総括
キーワード	コミュニケーション 音楽 身体 スポーツ
教科書・教材・参考書	参考文献 『音楽療法士のしごと』 生野 里花 (著) 単行本: 255ページ 出版社: 春秋社 (1998/01) 『ファシリテーターの「在り方」 エンパワメントドラムサークル』 佐々木 薫 (著) 大型本: 68ページ 出版社: エー・ティ・エヌ; 菊倍版 (2008/11/11) 『音楽文化のすすめ—いま、ここにある音楽を理解するために』 小西 潤子 (編集), 志村 哲 (編集), 仲 万美子 (編集) 単行本: 264ページ 出版社: ナカニシヤ出版 (2007/03) 『スポーツコミュニケーション』 東海林祐子 (著) 単行本: 187ページ 出版社: ブックハウス・エイチディ (2011/06) 『身ぶりとしぐさの人類学』（中公新書） 野村雅一 (著) 単行本: 225ページ 中央公論社 (2002/05)
成績評価の方法・基準等	レポートなどの提出物 70パーセント 講義時のワークシート 30パーセント
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587033701	科目番号	05870337
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(日本語と表現)		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 慶子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 慶子, 大森 アユミ		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	keiko-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部514研究室		
担当教員TEL	095-819-2302		
担当教員オフィスアワー	火VI		
授業の概要及び位置づけ	日本語表現の特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。		
授業到達目標	1) 自分自身の、言語によるコミュニケーション力の程度を客観的に認識することができる。(①⑫) 2) 固有の状況に対して、それぞれの立場の意図を析出することができる。(⑬) 3) 固有の状況に対して、意思疎通のための言語表現を想起することができる。(⑤) 4) 日常生活における言語によるコミュニケーションが果たす役割に関して理解し、吟味したコミュニケーションを行使できる。(③⑤⑫⑬)		
授業方法（学習指導法）	問題に基づいたグループ学習とその結果の発表 → 質疑応答 → 学習報告書の提出		
	回	内容	
	1	受講基礎調査 グループ編成	
	2	受講基礎調査をふまえて コミュニケーション力の自己診断	
	3	ケーススタディ1-1 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ) モデルケースを解読する	
	4	ケーススタディ1-2 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	5	復習	
	6	ケーススタディ2-1 「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ) モデルケースを解読する	

授業内容	7	ケーススタディ2-2 「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	8	復習
	9	ケーススタディ3-1 「言葉の差別」(性差) モデルケースを解説する
	10	ケーススタディ3-2 「言葉の差別」(地域差) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	11	復習
	12	ケーススタディ4-1 「親切の言葉」(相手にあわせて) モデルケースを解説する
	13	ケーススタディ4-2 「親切の言葉」(相手にあわせて) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	14	復習
	15	言語によるコミュニケーションの再定義
	16	試験
キーワード	日常生活、文字言語、音声言語	
教科書・教材・参考書	『ケータイを持ったサル』 正高信男著 中公新書 『ウェブ人間退化論』 正高信男著 PHP研究所 『コミュニケーション力』 斉藤孝著 岩波新書 『コミュニケーション力を引き出す』 平田オリザ著 PHP新書	
成績評価の方法・基準等	3回の欠席で失格。12回以上出席の場合に、下記で評価する。60点以上で合格とする。 プレゼンテーション、質疑応答 [10%] 個人レポート [20%] グループレポート(学習報告書) [40%] 試験 [30%]	
受講要件（履修条件）	個人で行うこととグループで行うことの両方ができること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587034101	科目番号	05870341
授業科目名	●コミュニケーション実践学Ⅱ(異文化コミュニケーション)		
編集担当教員	大橋 絵理		
授業担当教員名(科目責任者)	大橋 絵理		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大橋 絵理,奥田 阿子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	eohashi@nagasaki-u.ac.jp, a-okuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL	095-819-2086（大橋）、095-819-2380（奥田）		
担当教員オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00 (大橋, 奥田)		
授業の概要及び位置づけ	2010年に日本での国際結婚は4.3%以上となっており、この数字は世界のグローバル化に伴い、さらに増加すると推測されている。したがって、「国際結婚について考える」という学習内容は、学生の将来のみならず、日本社会全体にとっても避けては通れない検討課題であると思われる。この授業では、国際結婚という問題を通して、各国の社会、文化、宗教、政治、法律の相違という他者的な視点を考察し、自己の理解を相対化することをねらいとする。		
授業到達目標	アクティブラーニングを取り入れた授業方法を取り、以下の4点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。①③⑥ 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考すること通し多様性を理解する能力を身につける。④⑤⑨ 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。⑫⑬ 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。②⑦⑪		
授業方法（学習指導法）	この授業では、講義、グループ活動、発表を通して国際結婚についての知識を深めていく。初めの数回は、講義形式の授業を数回取り入れ、この授業における前提の知識を得る。その後は、1グループ5名ほどのチームに分かれ発表に向けた調査を行う。調査では、インターネットや外国人に英語でインタビューなどして情報収集をし、チーム内で議論をしながら発表準備を行う。発表では、調査結果を報告するだけでなく、他のグループを評価しながら、新たな知識を身につけていく。		
	この授業は国際結婚について、知識を深めます。		
	また、アクティブラーニングを導入し、主体的に学ぶ姿勢を育成します。		
	回	内容	
		授業の概要の説明 1) 国際結婚をテーマとしたアクティブラーニングを授業で実施することを説明する。	

授業内容	1	2) 「日本の結婚制度の成立」、「欧米のキリスト教社会の結婚」「中東、アフリカのイスラム教社会の結婚」「アジア各国の結婚（韓国、中国、東南アジア）」の歴史と現状についてバランスよく情報を提供する。
	2	テーマとゴールを設定 1) 「全体のテーマ」国際社会と結婚について考察する。 2) 「全体のゴール」グローバル化する国際社会への対応法 3) 関心がある者どうしでのチーム作り（1チーム5人）
	3	計画 1) 各チームで具体的に何をテーマにすべきかを考え、役割分担、各自の仕事を確認する。2) 具体的な「工程表」「企画書」を作成する。
	4	映画鑑賞 1) 「ダーリンは外国人」の映画を見る。 2) 感想を議論する。
	5	インタビュー 1) 外国人に授業に来てもらって、英語でその国の結婚制度について説明してもらう。 2) その後学生達も英語で質問して、答えてもらう。
	6	情報リサーチ (1) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
	7	情報リサーチ (2) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
	8	情報リサーチ (3) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
	9	製作(1) 1) パワーポイントあるいはロイロノートでスライド作成。
	10	製作(2) 1) パワーポイントあるいはロイロノートでスライド作成。
	11	プレゼンテーション(1) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答をする。 2) それらを学生相互で採点する。
	12	プレゼンテーション(2) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答する。 2) それらを学生相互で採点する。
	13	プレゼンテーション(3) 1) 各回で4チームずつ、プレゼンテーションをして質疑応答する。 2) それらを学生相互で採点する。
	14	ディベート(1) 最高得点だったチームの議題について、賛成派、反対派、ジャッジグループを作って討論する。
	15	ディベート(2) 最高得点だったチームの議題について、賛成派、反対派、ジャッジグループを作って討論する。
	16	レポート レポートを書く。
キーワード	異文化、他者、国際理解、共生思想	
教科書・教材・参考書	特定の教科書は採用しない。 <参考書> 1) 小栗 左多里、『ダーリンは外国人』、メディア ファクトリー、2002年 2) 河原 俊昭ほか、『国際結婚 多言語化する家族とアイデンティティ』、明石書店、2009年	

	3) 田代純子、『国際結婚・離婚ハンドブック』、明石書店、2011年 4) 竹下修子、『国際結婚の諸相』、学文社、2004年 5) 榎本 行雄ほか、『国際結婚実務ガイド』、明石書店、2012年
成績評価の方法・基準等	授業態度（積極的発言等） 20％ プレゼンテーション 40％ レポート 40％
受講要件（履修条件）	各人が 1) プレゼンテーションの資料を作る 2) プレゼンテーションをする 3) ディベートに参加する 4) レポートを書く 5) 授業外学習に週平均2時間程度を充てる こと、参考資料をきちんと読むこと。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業外学習の具体的活動例： プレゼンテーションの資料を作る。 ディベートの準備をする。

